

さんさんコンソにおける未利用資源活用の取組み事例

○加藤 優^{*1}，三須 幸一郎^{*1}，山岸 大輔^{*1}，渡邊 裕^{*2}
(^{*1}鳥取大学 産学・地域連携推進機構，^{*2}岡山大学 研究推進産学官連携機構)

1. はじめに

中国地域産学官連携コンソーシアム（愛称：さんさんコンソ）では、複数の大学等が連携して各大学の技術や知的リソースを相互に活用した産学連携事業を行っている。現在、文部科学省からの支援を受けて事務局を岡山大学と鳥取大学に置き、正会員である中国地域の大学・短大・高専の24機関、各地域の支援団体（特別会員）46機関から構成されている。

このさんさんコンソでは、平成23年度から「未利用資源の有効活用に関する研究シーズの集約と高度化」を基本テーマの一つに掲げ、中国地方の各地に固有の未利用資源に関連した地域活性化を支援する取組みを行っている。本発表では、その取組み事例として、これまでに2回開催した『未利用資源活用ワークショップ』について報告する。

2. 取組み事例（ワークショップ）

大学等の知見・技術シーズを活用すると共に、各地域に固有の未利用資源を活用した地域活性化を支援するため『未利用資源活用ワークショップ』と題して以下のイベントを開催した。

(1) 第1回テーマ： 希少きのこ“松露（ショウロ）”の復興と海岸松林の再生

○日時：平成24年2月15日（水）13:30～16:30

○場所：株式会社センコースクールファーム鳥取（鳥取県東伯郡湯梨浜町はわい長瀬1350）

松露（ショウロ）とは、主にクロマツの根に感染して発生するきのこであり、人工的な栽培が困難であったが、鳥取大学（農学部・霜村准教授）と鳥取県農林総合研究所（有吉室長）は共同で松露の子実体を人為的に発生させる人工栽培の方法を開発した（特開2012-080811）。松露は希少価値が高く美味として知られる一方、クロマツへの病害耐性や生育促進などの生理活性を有することも知られている。

このワークショップは、その開発した技術による松露の人工栽培やクロマツ植樹への活用を狙って行ったものであり、研究者からの技術紹介、松露を使った茶碗蒸しの試食、意見交換などを実施した。当日は、民間事業者12機関および自治体等から合計37名が参加し、意見交換においては来場者による活発な討論がなされた。

(2) 第2回テーマ： マイクロ水力発電の活用方法と地域活性化

○日時：平成24年8月29日（水）13:30～16:30

○場所：鳥取大学 広報センター（鳥取市湖山町南4-101）

最近の再生エネルギーへの関心の高まりの中で、中山間地域などでは水力エネルギーの活用も見直されてきている。そこで「マイクロ水力発電」をテーマにしたワークショップを鳥取市との共催により開催した。技術的側面では、津山工業高等専門学校・佐藤紳二教授から、また水利権等の法制度について島根大学・江渕武彦教授から説明して頂いた。当日は、民間事業者、自治体等から約60名が参加し、特に県外など遠方からも多くの参加者があった。

3. おわりに

今回実施したワークショップにより、民間事業者からも多くの参加はあったものの、技術移転や地域での実用化については、今後の継続的な活動が必要である。さらに今後も中国地域に存在する未利用資源に関して、大学等の有用な知見・技術シーズの活用や地域の活性化を支援すべく、ワークショップ等の取組みを各地で行っていきたい。

【謝辞】

本活動は、文部科学省・イノベーションシステム整備事業（大学等産学官連携自立化促進プログラム【機能強化支援型】）の交付を受けて行われたものである。